

“森林とふれあい・まなび・つくる”

てしお森遊会の活動について

留萌北部森林管理署 渡邊 博司

「てしお森遊会」が活動している天塩町は、稚内市から日本海沿い南に約 70 km の位置にあり、日本最北の大河「天塩川」の河口に位置する人口約 3,500 人の町です。

海岸沿いを走る、国道 232 号線は、通称「オロロライン」と呼ばれ、国立公園・サロベツ湿原の彼方には雄大な利尻富士の姿を眺望することが出来ます。

天塩川はその豊かな水量から昔は木材の流送をはじめ、物資の輸送など私たちの町に大きな恵みをもたらしてくれました。



写真 1 利尻富士と牧草地

現在では、天塩町の名産品の一つである「天塩青シジミ」は水産業の要となる役割を担っています。

また、天塩町はその豊かな自然を背景に酪農王国として発展をしています。

《はじめに》

人と自然が共存するための発展を目指す天塩町は、「木や花があふれる豊かな町づくり」を進めており、町を取り囲むように公園が整備されています。

町の中央には「天塩町運動公園」があり、その周囲には面積約 36 h a の「北の森林公園：こもれびの森」が配置されています。

これらの公園は、様々な木や野鳥・昆虫の観察ができる場所として町民はもとより町外の方々にも広く利用されています。

このような自然環境に恵まれた中で生活している町民は、地球温暖化などの地球環境の悪化を深刻な問題として受けとめており、「今まで以上に自然を大切に出来ないだろうか？」「自然と共存していくために何が出来るだろうか？」と常々考えていました。

しかし、残念なことに自然や環境問題について理解を深める場がなかなかない状況でした。

このように、身近に自然は多くあるものの、なかなか「自然の中に入り込む」といった体験が出来なかったからです。

そんな時、ボランティア団体の一人が、当署が募集した一枚の新聞折り込みを目にしました。

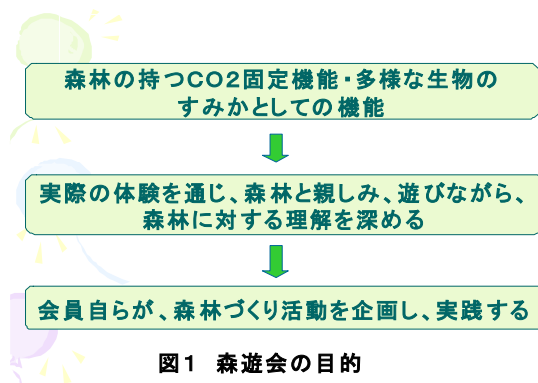
そこには、“森林との遊びの中から「ふれあい・まなび・つくる」をしてみませんか”と書いてありました。

この出会いをきっかけに、実際の自然とふれあうことで森林の優しさ・暖かさ・大切さをより一層、肌で感じる事ができました。

その後、「森遊会」の中で森林ボランティア組織として「てしお森遊会」を立ち上げようという話が持ち上がり、平成 14 年に「てしお森遊会」という女性だけの森林ボランティア組織が設立されました。

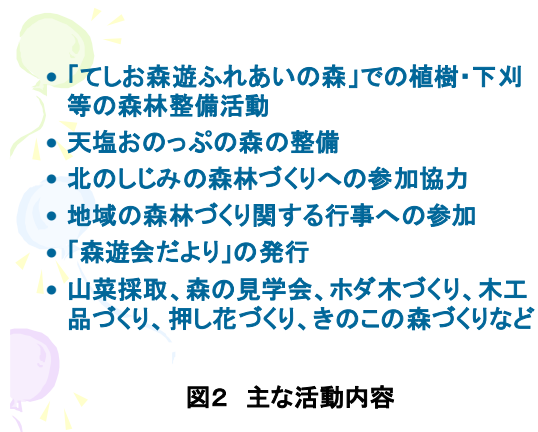
平成 14 年 6 月 16 日に設立された「てしお森遊会」“森林との遊びの中から「ふれあい・まなび・つくる」をしてみませんか”をキャッチフレーズに、現在も活動を継続しています。

会員数は発足当時は 21 名で、多い時には 50 名を越えていましたが、現在は 26 名です。



○「てしお森遊会の目的」

「てしお森遊会」の活動は、森林が持つ二酸化炭素を固定する機能や多様な生物のすみかとしての機能などを、楽しみながら森林とふれあう実際の体験を通じて、教えられた知識としてではなく、本当に森林に親しみを感じ、森林への理解を深めるため会員自らが森林づくり活動を企画し、実践することを目的にしています。



○「てしお森遊会の活動」

当署と平成 14 年 8 月に協定を結んだ国有林内への植樹・下刈等の森林整備活動があります。

この国有林は「てしお森遊ふれあいの森」と呼ばれています。

この他、地域における植樹会の実施、地域の森林づくりに関する行事やイベントなども積極的に参加しています。

具体的な活動について説明します。

○「てしお森遊ふれあいの森」

「てしお森遊ふれあいの森」は、当署 181 林班な小班の防風保安林内にあり、面積は 0.28 ha です。

このエリアの中で、苗木の植栽や花壇の設置及び整備、東屋の設置、看板や入口への標柱設置、植栽した苗木の下刈等の保育作業を行っています。



地元の自然とふれあい、会員相互の親睦を図りながら、森林整備を中心に活動を実施し「てしお森遊ふれあいの森」及びその周辺に植樹した樹木はグイマツ F1、アカエゾマツ、ミズナラ、カシワ、サクラなど計 2 千本以上になり、平成 14 年度に植樹したグイマツ F1 は見上げるほどに成長しています。



- ボランティア・サポート・プログラムによる道路維持管理活動として国道40号天塩町雄信内地区における防雪林の植樹活動(主にアカエゾの植樹)を毎年実施

写真 3 「天塩おのっぷの森」の様子

○「天塩おのっぷの森」

平成 16 年 8 月に留萌開発建設部との間で「一般国道 40 号天塩町雄信内防雪林の植栽管理に関する協定」を締結し、ボランティア・サポート・プログラムによる道路維持管理活動として、国道 40 号天塩町雄信内地区における防雪林の植樹活動を実施しています。

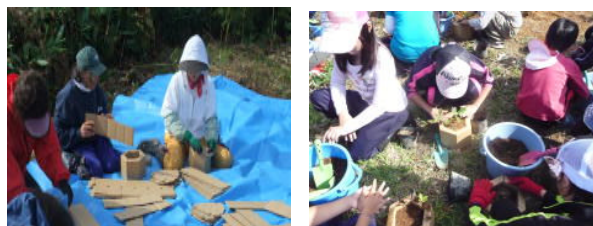


写真 4 「北のしじみの森林づくり」の様子

○「北のしじみの森林づくり」

地元の天塩小学校 3 年生児童が防風林の造成のため、平成 17 年からドンダリの種から育てたカシワの苗をカミネッコンに移植し、天塩町川口地区にある国有林に植樹をしています。「てしお森遊会」のメンバーがボランティアとしてその作業のお手伝いをしています。



写真 5 作業中の様子

○「その他」

左側の写真は、天塩町運動公園内に植樹したサクラの鹿対策用ネットの取り付けをしている様子です。

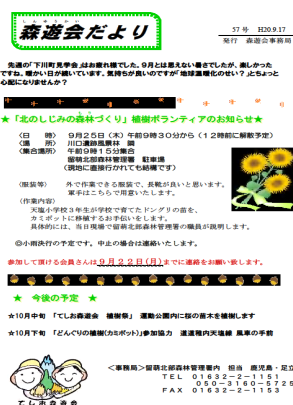
森林管理署等における植樹の行事などにも積極的に参加しています。

○「森遊会だより」の発行

「てしお森遊会」では、活動の実施予定の絡活動の内容の報告を「森遊会だより」として発行しています。

右側の絵が、「てしお森遊会」のシンボルマークです。

森を抱きかかえる二人の人が描かれています。



てしお森遊会シンボルマーク

図3 「森遊会だより」

○「国民の森林づくり」感謝状受賞

平成 14 年 6 月に設立後、「てしお森遊ふれあいの森」での植樹・下刈をはじめ、平成 16 年からは留萌開発建設部と「天塩おのっぷの森」の協定締結による植樹、平成 17 年から「北のしじみの森林づくり」のボランティア活動を実施してきました。

国有林のみならず地域の森林整備活動等に幅広く貢献しており、こうした長年に渡る活動が認められ、平成 24 年 3 月に北海道森林管理局長より「国民の森林（もり）づくり」感謝状が授与されました。



平成 24 年 3 月「国民の森林づくり」
感謝状受賞

○「今後の課題」

今後の課題として、今までの活動内容を振り返り、次年度の活動に活かしたいと考えており、会の行事の活性化を図るため活動計画の検討などを行い、例会内容の一層の充実を図りたいと考えています。

また、町の広報誌などに活動内容の掲載やてしお森遊会の行事への参加の呼びかけなども行っていけばと考えています。

これらの活動により、町民への活動 P R 効果が期待できると、新規会員や若手会員の掘り起こしにつながればと思います。

今までの活動内容を振り返り、次の活動(次年度)に活かす

活動計画の検討→例会内容の一層の充実を図る

町の広報誌などに活動内容の掲載
てしお森遊会の行事への参加の呼びかけ



町民への活動のPR効果期待、新規会員の掘り起こし

図 4 「森遊会の今後の課題」

○「まとめ」

会員の方々は活動に参加することによって、天塩町の森林づくりに貢献出来ている充実感と、地球環境にとって森林が大切な役割を果たしていることが理解でき、そして活動に参加することによって会員同士の輪が広がっていることを実感しています。

自然環境に恵まれた地域に住んでいる私たちは、てしお森遊会の活動を通じ森林の持つ機能をより一層理解することによって私たちの生活と森林の結び付きを学び、森林を守り育てる重要さを、未来を担う子や孫達に伝えていきたいと考えています。